

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | 地域療育センターあおば こども支援室こだち（児童発達支援事業所） | | 公表日 | | 2026年 3月 31日 | |
|---------|----|---|----|-----|---|---|--|
| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 4 | 1 | ・コーナーごとに使い方を分けている ・活動内容によって机を廊下に出して広く設定が取れるようにしている | ・コーナーづくりの際に粘着テープの使用をしており、幅を広げる際には自由が利くので良いが、建物としての劣化の原因になりやすい ・運動活動を十分に取れるスペースや自由遊びのスペースがもう少し取れると良いため、安全性への配慮との兼ね合いも含め検討が必要である | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 4 | 1 | | ・クラス運営をしていく中で個別対応が必要な際に、職員の人手が必要になることがある ・構造化の不足から子どもが自立的、能動的に行動できていない部分はマンパワーの対応に頼りがちになるため、職員の構造化に対する知識の強化と具体的な支援の導入は課題である | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 4 | 1 | ・個別スケジュールの活用など視覚支援などの工夫など個別に合わせて検討し提供している ・つまづき、転倒先の危険物などはその都度での対処ができています | ・口頭説明に頼る部分や認知発達に合わせた調整には課題があるため、子どもにとってわかりやすい視覚提示の改善や安全性を考慮した玩具の見直しが必要である | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 4 | 1 | ・日々清掃に取り組んでいる ・清掃道具を新たに購入し、対処のしやすさが向上したできるようになった ・必要な物品のみを設定するなどしている | | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 4 | 1 | ・パーティションを設置したり座席の位置の移動などの工夫をしている ・活動と自由遊びのコーナーを分けることで、それぞれの活動時に空いた空間を使えるようにしている | ・自由遊びのコーナーは、活動中に視界に入った際に玩具に駆動されてしまうことは課題である ・必要時個別スペースを効果的に活用できるよう、設定や使用方法について共有・検討が必要である | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。 | 4 | 1 | ・人事考課制度の活用やミーティングにて、適宜検討や振り返りの場をとり、意見交換の場がある | ・日々の業務負担を減らす工夫を通して業務改善に割ける時間を捻出したり、課題の見える化を通して業務改善を意識しやすい風土を醸成させていくことが必要である | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 5 | 0 | ・保護者から挙げた課題等をミーティングで検討し、具体的に改善できることは実施している。また継続議題も検討できる仕組みを作っている ・日常的に課内で情報共有を行うことで、クラスを超えた全体の対応につながっている | | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 5 | 0 | ・ミーティングや方針検討の場を設けることで、具体的に改善できることは実施している。また継続議題も検討できる仕組みを作っている ・担任間で利用者へのタイムリーなアプローチの仕方をチームとして考えることができています | ・繁忙期にどのような業務負担があるのかや、職員による不均衡を捉え、業務改善に注力できる余白を生み出す工夫が必要である | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 5 | 0 | ・第三者評価を定期的に実施している | | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 5 | 0 | ・センター内研修の実施や療育研究会等各種研修の周知、情報提供がされている。また、学会派遣の機会が設定されている | | |
| | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 4 | 1 | ・ホームページに公表されている | ・職員が十分に認識できる共有の仕方については検討が必要である | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。 | 5 | 0 | ・個別支援会議にて検討する場がある | | |
| | 13 | 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 5 | 0 | ・必ずチームでミーティングを行い共有できている | | |
| | 14 | 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 5 | 0 | ・必ずチームでミーティングを行い共有できていると共に、方針について定点で確認する場を設定している | | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 4 | 1 | ・個別療育やオリエンテーションの際はアセスメントシートを活用し、必要に応じて支援後に録画動画をみて確認するようにしている | ・新入職員であってもアセスメントしやすいツールの開発・修正について検討が必要である | |

| | | | | | | |
|--------------|--|--|---|--|--|--|
| 適切な支援の提供 | 16 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 5 | 0 | | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 4 | 1 | ・プログラムミーティングを行い、担任間だけでなく、児発管、管理者も含めて検討する機会を作っている | ・職員全員がより充実したプログラム開発に参画できるように、職員の資質向上をはかる必要がある |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 5 | 0 | ・プログラムミーティングの中で個々の特性など踏まえて現状とのすり合わせで活動内容が考えられていると思う | ・保護者がプログラムの意義を正確に捉えられるよう、わかりやすい説明や伝え方の工夫について検討が必要である |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。 | 5 | 0 | | |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 5 | 0 | ・担任間では打ち合わせを行えている | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 5 | 0 | ・担任間では打ち合わせを行えている ・支援後に録画録音を確認することで、より丁寧な振り返りが行えるようになった | |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 5 | 0 | | ・一律に必要な記録をのこせるように、記入する視点などについては共有やスキルアップが必要である ・記録のデジタル化など業務改善、効率化については検討が必要である |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 5 | 0 | ・モニタリングを行うことでタイムリーに利用者の様子やニーズを共有することができている | |
| 関係機関や保護者との連携 | 24 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 5 | 0 | ・担任だけでなく、児発管や管理者も参加している | |
| | 25 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 5 | 0 | | |
| | 26 | 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 5 | 0 | ・訪問の実施や電話相談、見学対応をしている | |
| | 27 | 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 5 | 0 | ・引き継ぎを実施している | |
| | 28 | (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。 | | | | |
| | 29 | 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。 | | | | |
| | 30 | (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。 | | | | |
| | 31 | (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。 | 4 | 1 | ・児童発達支援センターとしての機能を持ち、必要に応じて他職種の職員とも支援の方向性など検討する機会が取れる | ・連携が適宜であるため、よりサービスの向上につながるよう定期的な意見交換の場を設けるなど検討できると良い |
| | 32 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 | 4 | 1 | | ・限られた療育時間を有効に活用するため、交流の機会を捻出することが難しい |
| | 33 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 5 | 0 | ・親子日を通して、子どもについての共通理解を持てるように心がけている | ・より共有理解を深めるための時間の捻出や、発達特性と認知発達の2軸で伝えていくためのスキルアップができると良い |
| 34 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 5 | 0 | ・同室参観にて目的的に活動に参加する機会や、別室参観の形態をとることで子どもの様子を客観的に観察し理解を深める機会を設けている ・参観だけでなく、テーマ懇談も実施している | ・よりタイムリーに子どもの様子の把握や理解の深化に繋げるべく、懇談の機会を増やすなど計画を見直せると良い | |

| | | | | | | |
|----------|----|--|---|---|---|--|
| 保護者への説明等 | 35 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 5 | 0 | ・運営規定や利用者負担等については、重要事項説明会や年度初めのオリエンテーションで説明し、支援プログラムについては都度担任から説明している | |
| | 36 | 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 5 | 0 | ・聞き取り用紙にて確認を行い、内容に応じて詳細な聞き取りなどもしている | |
| | 37 | 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。 | 5 | 0 | | |
| | 38 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 5 | 0 | ・連絡ノートや参観シートなどで適宜把握できるシステムがある | ・身辺自立の支援場面が少ないためか、その点に関する相談が挙がりにくいと、意図的に聞き取りなどの仕組み作りには工夫が必要である |
| | 39 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 4 | 1 | ・年長児保護者勉強会や卒園児保護者の講話会の開催など、交わる機会は設定している。また卒園児保護者有志による会の紹介も行っている ・クラス単位では保護者控え室があることで交流しやすい仕組みがある | ・きょうだい児の交流の機会は開催できていないが、事業所利用中のきょうだい児は低年齢であることも多いため、企画の難しさがある。そのため、適宜個別の相談に応じているが、より相談していただきやすい工夫は検討が必要である |
| | 40 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 4 | 1 | | ・連絡ノートの書式を改善し、相談ニーズの取りこぼしを防げるような工夫が検討できると良い |
| | 41 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 5 | 0 | ・毎月おたよりを通して情報を発信している ・マチコミアプリを活用し、いつでもどこでも連絡を受信していただけるようにしている | ・おたより等でどのような情報を発信していけると良いかなど、プログラムミーティングなども活用し検討していけると良い |
| | 42 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 5 | 0 | | |
| | 43 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 5 | 0 | ・保護者と子どもについて話す際には、子どもに相談内容が聞こえないように相談環境への配慮をしている | |
| | 44 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 3 | 2 | ・事業所単位では行っていないが、センター全体として地域に開かれた行事の開催を予定している | |
| 非常時等の対応 | 45 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 5 | 0 | ・保護者には、重要事項説明会やオリエンテーションで周知している。職員に対しても、年度初めの会議で周知している | |
| | 46 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 5 | 0 | ・様々な場面を想定した訓練も自主的に行っている | |
| | 47 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 5 | 0 | | ・緊急時に速やかに把握できるような内線以外の方法やシステムがあるとよいと思う |
| | 48 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 5 | 0 | | |
| | 49 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 5 | 0 | | |
| | 50 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 5 | 0 | | |
| | 51 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 5 | 0 | | |
| | 52 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 5 | 0 | | |
| | 53 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | 5 | 0 | ・重要事項説明会にて明示し説明している | |

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------------------------|----|---------------|
| ○事業所名 | 地域療育センターあおば 児童発達支援事業所こども支援室こだち | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 12月 2日 | | 2025年 12月 19日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 46 | (回答者数) 33 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 12月 2日 | | 2025年 12月 19日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 31日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 子ども一人ひとりに合わせた個別支援計画の作成 | それぞれのアセスメントについての検討や共有を行い、日々様子とも照合しながら、個別支援計画に反映している | 個別支援計画で立てた目標を十分に実現できるプログラムの立案に向けて、職員間での情報交換のあり方や職員の資質向上に努める |
| 2 | 安全管理や非常時の対応、およびその周知 | 職員間で各種マニュアルを確認する時間を確保すると共に、子ども参加の避難訓練とは別に、様々な場面を想定した訓練を実施し、有事に備えた意識を高めるようにしている。また所内でのインシデントを共有し、未然防止、再発防止に向けた対策をたてるようにしている | より安全且つ現実的なマニュアルに沿った細かい動きや設定の工夫について意識化できるように、定期的に検討する。また、必要時保護者の方にもご協力いただけるよう情報の掲示等を工夫する |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 事業所のスペース | 運営基準は満たしているものの、運動プログラムやルールのある遊びなどクラス全員で行う活動の際には、十分な広さとはいえず、安全性を保障できるプログラムに限定される | 安全性に配慮しつつ、空きスペースの柔軟な調整を検討をしていく |
| 2 | SNSやアプリの活用 | 就労世帯の増加もあり、欠席連絡等でのアプリやSNSの活用を望む声が保護者から寄せられている。しかし、直接的なやりとりではなくすることで、お子さんやご家庭の状況の正確な把握や、保護者との十分なコミュニケーションについては課題が残ると考える | ガイドラインや横浜市からの指導も踏まえつつ、保護者からご連絡をいただきやすい工夫や配慮について、引き続き検討をしていく |
| 3 | 職員の配置数 | 運営基準は満たしているものの、個々の療育課題に対応する際に、マンパワーに頼ることで、結果的に職員が不足しているような状況に陥ることがあり、保護者や職員が不安を感じる事態になることがある | 可能な時には児童発達支援管理責任者や管理者も安全把握に入りつつ、マンパワーに頼らずとも安全且つ有意義な支援を提供できるよう、プログラムや構造化の深化を進める |

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

| 事業所名 | 地域療育センターあおば こども支援室こだち（児童発達支援事業所） | | 公表日 2026年 3月 31日 | | | | 利用児童数 46名 | 回収数 33名 |
|--------|---|---------------|---------------------|------------|-----------|--|--|------------|
| チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 | | |
| 1 | こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。 | 29 87.9% | 4 12.1% | 0 | 0 | ・6人で室内で活動するとなると机を動かしても充分とはいえない広さだと思った ・目の届く範囲で活動やクールダウンが出来るよう工夫されていて良いと思う ・自由遊びのスペースが少し狭いように感じる。子供同士が関わるきっかけはしやすい反面トラブルも起きやすいのではと思う ・子ども達に合わせて都度配置を変えたり配慮して頂けると思う ・活動場と椅子に座って話を聞いたり、工作する場所を分けてある ・遊びと活動のスペースに区分けすることでやや狭く感じてしまうところはあるが、視覚的にわかりやすい構造になっていてよいと思う。また、適切な配置によってうまくスペースを活用されていると思う | 安全性に配慮しつつ、空間の活用の仕方を検討していきたいと思います | |
| 2 | 職員の配置数は適切であると思いますか。 | 27 81.8% | 3 9.1% | 2 6% | 1 3% | ・適宜補助の先生が入ってくださるので安心感がある ・6人に対して2~3人なのでしっかり目が行き届いていると思う ・振り返りの時間があまりない事があるため ・子どもの体調や気分により、その子に付きっきりになるため、先生方が足りないと思う時はある ・先生の負担が大きい。もう少し人数を増やした方が良いと思う ・子ども達がそれぞれの行動をした時に、3人は必要なのかと思う ・特性のある幼児が集まっているのにカバーしきれない。安全面に疑問がある ・参加人数が多いと先生の数が足りていないと感じる事もあった。しかし、全員に対して目を配るのは難しい事は理解しているので、妥当だと思う | ご不安にさせてしまい、申し訳ありません。安全性に配慮しつつ、プログラムの見直しや構造化について引き続き検討をしていきたいと思います | |
| 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。 | 33 100% | 0 | 0 | 0 | ・子どもが自分の支度ができるよう視覚的に分かりやすい ・活動する場と遊びの場が分かれていてよいと思う ・視覚的に余計なものがなく、わかりやすく配慮されていると思う | | |
| 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。 | 32 97% | 1 3% | 0 | 0 | ・机を頻りに拭くなど清潔にいただいていると思う ・いつもきれいで整っており、安心して通わせていただいている | 皆さまに気持ちよく過ごしていただけるよう、引き続き気をつけてまいります | |
| 5 | こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。 | 31 93.9% | 1 3% | 0 | 1 3% | ・親の視点では気づかない専門的なアドバイスがもらえるのでとても参考になる ・特性に応じた困り事が出てきた際に、寄り添ってアドバイスをいただけるので大変助かっている ・個別に声掛けなど、一人一人に合わせた対応をしていただいていると思う ・言葉の遅れについて1番心配していたが、かえてクラスのみでこの点についての対応は何もなかった。だが、特総センター行ってすぐに対応してもらおうように言われたことを伝えると、とても早いスピードで対応していただけた ・とても丁寧に特性を理解して頂いている | 保護者の皆さまのご心配事に寄り添い、ご相談していただきやすいシステムの構築や、日々のコミュニケーションの在り方の見直しをしてまいります | |
| 6 | 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。 | 30 90.9% | 0 | 0 | 3 9.1% | | 支援プログラムは、当センターホームページに掲載し、年度初めにお伝えさせていただいておりますが、より皆さまに知っていただけるよう、情報共有に努めてまいります | |
| 7 | こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。 | 33 100% | 0 | 0 | 0 | | | |
| 8 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 31 93.9% | 1 3% | 0 | 1 3% | | モニタリングの機会なども通して、保護者の皆さまとも共有させていただきたいと考えております | |
| 9 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。 | 31 93.9% | 2 6% | 0 | 0 | | 予めお示した計画を全うできるよう努めてまいります。また計画の実行にご不安や疑問をお持ちの際は、モニタリングの機会などにご意見をお寄せいただければ幸いです | |
| 10 | 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。 | 31 93.9% | 2 6% | 0 | 0 | ・毎回工夫を凝らした、目的を持った活動の実施があり、素晴らしい ・毎回違う内容の活動をしていただき、子ども達が取り組む様子を楽しく見せていただいている ・昨年度(年中のときのクラス)と同じようなことをしているように感じるときもあった | それぞれの活動のねらいや目的をご理解いただけるよう、丁寧な説明を心がけてまいります | |
| 11 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。 | 19 57.6% | 2 6% | 9 27.3% | 3 9.1% | ・習い事をしてないので姉兄以外は特はない ・園訪問をもう一回回数を増やしてもらってもいいのかなあと思う | 限られた療育時間の中で他園とのお子さん同士の交流の機会を設定していくことは難しいですが、園訪問の機会などを通して、お子さんの地域交流の促進に努めてまいります | |
| 12 | 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。 | 33 100% | 0 | 0 | 0 | | | |

| | | | | | | | | |
|----------|----|--|-------------|------------|------------|-------------|--|---|
| 保護者への説明等 | 13 | 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。 | 33 100% | 0 | 0 | 0 | | |
| | 14 | 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。 | 30 90.9% | 2 6% | 1 3% | 0 | ・ペアレントトレーニングではないが数回、家族に勉強会などをしてくださっている ・家族支援プログラムに参加していない為、判断出来ない | 今後もより充実した内容や参加していただきやすい時期の研修会の企画に努めてまいります |
| | 15 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。 | 31 93.9% | 2 6% | 0 | 0 | | 引き続き、お子さんについての情報共有に努めてまいります |
| | 16 | 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 | 32 97% | 1 3% | 0 | 0 | | |
| | 17 | 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。 | 32 97% | 1 3% | 0 | 0 | ・職員の皆さん、傾聴の技術に長けている方ばかりだと思う | |
| | 18 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | 20 60.6% | 3 9.1% | 0 | 10 30.3% | ・例えば、地区ごとなど、クラス以外の保護者の方との交流の機会があれば、参加させていただきたいと思う ・きょうだい向けのイベントがあるのかどうかは存じ上げない | 今後、皆さんのニーズにあった交流の機会を提供できるよう検討してまいります。また、きょうだい児さんについては、年齢帯も様々なため個々に支援をさせていただきたいと考えています |
| | 19 | こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 30 90.9% | 2 6% | 0 | 1 3% | | 相談していただきやすい環境整備と共に、迅速かつ丁寧な支援に努めてまいります |
| | 20 | こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。 | 31 93.9% | 2 6% | 0 | 0 | ・毎回連絡事項が紙の為、体調不良など欠席の場合連絡が取りづらい。特に働いていると夕方以降しか電話連絡も取れない。アプリなど活用し、柔軟に対応して欲しい | ご不便をおかけし申し訳ありません。連絡いただきやすい手段について、引き続き検討してまいります |
| | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。 | 25 75.8% | 1 3% | 7 21.2% | 0 | | 皆さんにわかりやすい発信手段について、引き続き検討してまいります |
| | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 33 100% | 0 | 0 | 0 | | |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 33 100% | 0 | 0 | 0 | | |
| | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 30 90.9% | 1 3% | 0 | 2 6% | ・5月あたりに保護者まじえて訓練があった | 引き続き、年度初めの説明と定期的な訓練を実施してまいります。また、保護者の皆さんにいつでも非常時の流れをご確認いただけるよう、掲示等の工夫についても検討してまいります |
| | 25 | 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 32 97% | 0 | 0 | 1 3% | | 上記同様、安全計画について情報共有してまいります |
| | 26 | 事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。 | 23 39.7% | 0 | 0 | 10 30.3% | ・クラスでそのような状況になったことがないため、わからない ・おでこを机にぶつけてしまった時に、すぐに冷やすなどの対応をしてくださった | お子さんにも保護者の皆さんにも安心して通っていただけるよう、けが等が発生した際には、速やかに状況を説明しております。また、その際には所内で再発防止策を検討してまいります |
| 満足度 | 27 | こどもは安心感をもって通所していますか。 | 31 93.9% | 2 6% | 0 | 0 | ・かえでクラスに通うのを楽しみにしている | |
| | 28 | こどもは通所を楽しみにしていますか。 | 28 84.8% | 5 15.2% | 0 | 0 | ・毎週楽しみに通っている ・日によって波はあるが、楽しく通っている ・年中～年長の秋頃まで楽しみに通っていたが、最近は行きたくないと言う。(理由は不明) | お子さんの細かな機微も捉えて、療育提供できるよう努めてまいります |
| | 29 | 事業所の支援に満足していますか。 | 30 90.9% | 3 9.1% | 0 | 0 | ・いつも些細な困り事にも親身になって話を聞いてアドバイスくださり、心の拠り所になっていると共に安心して日常生活が過ごせるようになった。 | 温かいお言葉をたくさん頂戴し、ありがとうございました。皆さんからいただいたお言葉を励みに、今後もより良い療育の提供に邁進してまいります |